



信抄
并
全

子 12
1656
1



花傳抄

子 12
1656
1

花傳抄

卷五

12
1656



又申樂延年此...其源をたけ
ぬる小此園小...ある取地神五代あま
てる清祚乃清時よ天乃岩戸此神あそ
い志こまひ一時八百乃神達たりまう
原小あひまりり紛ひ此曲を依る流り
めあひて岩戸乃前よて神樂と云こ
とと持らうーたまふ具示成乾ーて
天照皇と大神宮岩戸をを紛ひ日本あ
きらうふ成よりこのる今よ此曲繁

神傳

抄傳花

昌ありのしるしを目出度曲か此をて其
見を借(ま)あふといふとも代るたぐねれ
て其風をまあふ事およひのりかく
らざる人、役者何またあまこゝ万人の
そてあまふ度成りて近代あまこゝ乃
役者を略しありそのれきううとか一能と
云事といふりりりむるありそとあつこ
とぬりぬるよみりともより秦は勝よはて
天下安んれ為又ら徳人は樂のなるをあらわ
曲を作りいへとありていほ勝を承て其時三
十三番れ能と作りりりむる志のせとを
今のやうある能乃心をあく和らとあや
あ、おえや、一、一曲うあて一座のあそひ
まてあく有はるを中此天下に竹田をい
とりてあ人曲乃名人をつる、此曲とよま
か、一、その時、のあ人六十六番れ能と作り
いろく乃曲とそたれあり今、よ、すれ能
こ、ハ、是、之、竹、田、ハ、今、う、春、を、ま、也、
い、は、

能傳一

二

當家乃源也これ神代の海ありてや一ハ
かりとおとこれよりそりいと小せ誦ハ神事と
いふりせりきりふ小神事に能とすのこ云
そけは之何あるもつとさだしつらのも神を
徳給ふと右れ子細あり此藝とたり
おも人ハ佛神乃清めりふふかの小神事
うらひあひ能ありてあふとく心あ
たふらひのよきつれめやもくそ世國乃り
よのいのちのよきつれめやもくそ世國乃り
法世法神代乃りまう人間乃りまう
めいとれはつらむあまてことくをあらう
みちのくまををやつて神代業よありはす
是とんくいつらむ教心おもひて一もはま
くも能を見たりん人かういむまうめんを
むいりあつとほまうまへまといひ
一海あるまをさうつらとてまうくむり
さうんや蛇時ハ此藝ふ心とわく教人ハ親世ハ
又まうふらひ後生ハ佛果よまうらう

多くいふ一然らざる道少と首命は事世
のありてはまた義をいけり徳を言やうと
さへくさうくしむる一あるはよむとわくさ
れ取くをみるよるに貫之よ作く撰
せしむ古今集を伝くせ給ふ別古今とは
いふ一今とかいふあり是も神代よりけり
乃を根らしく此世間乃道程とありり
人る小志くせん為也然とを此及そ万民乃
うに入るありかう一只語ふ一なる
事いふ一まの面白きものきといふ
一きいそいしをもちい給ふよふといふか
みらふ入夏なや一佛法少と念れあさ
とがとげとやせ能のくもあき難あそ
あれ此義とありむ時守り人をんる人し化
念いあ一つこと他ん事そ人のあきま
そ思ひ出もたまう一人あるあきまか
佛なりかこのこといともちり曲あれ
道をたりあまらん人いふあか
あふ

後集

四

ろへす一ち事ろてけいこあへん

一かくや入とく物れらめそ思さる取人
間乃たあひよやとるのちあり

一まくとお上もる風清是人間れ事る形也

一翁といひも尺さる出世れ佛法をひらち給ふ
心あり翁乃謡たし小と神たうとふく是

と作らちま苗大小ち教とくみ群又人
と表し地あり火風空とくくさるちまとく

空れ字にぬとく(苗とく風乃字はたこさる

小教と火の字にぬとく大教と氷れ字にた

へち教と地乃字よたとく大丈と空よた

とある言又空ハ天地陰陽み群み人ふ

やれれみあか也此理り尺さるそれへ

きこころき給小御孫あり

空れ字はちこのけらふたたり

とくそまかりすつあもゆとす

一能組のり一日は六番也子細ハ採此園と六

十六ふらる事多人のきあもや(さあ)い

母より國への水よのこす流ひは六十六
 々こいありのろりいふ人の心と國への聲
 声の葉あまのふ下まて列よこの言
 右乃水のろりめれ子細也此國を六十六能
 けり一まる取も六十六番あはれは是教ひの
 一〜一曰小六番よ定あり

一 番小返云とすの夏神張小定たり返云
 わ〜あ〜はは能あ〜とちま是存庵さ
 後あはれ神能よ定はよりまき、を日か

神國あり神代よりつ〜つる國あはれ今
 仁王此流代よ到るまて我朝乃長に神たり
 かのりいよは是月れきた〜して神をま
 嘉〜まろゆと云心よ〜つ〜一番に神張也
 一 二番よ終神とすの事平極此國の弓矢と
 〜あ〜はとぬ〜とすおさまる國あはれ
 〜あ〜はか〜あ〜れ乃は終神を用也
 一 三番よかつ〜とすの夏とあ人よたにかつ〜
 いく〜あ〜ま〜は成れと心は〜是たきある

いろいろありかついひしき人なるは、
 細い番に神代つりつめと後二番小あくは
 かつらつれ修羅といひき三番にいかるに因む
 さしつゝ天下泰平此時ハことくつゝ
 孝人也かつらつめハ三番にゆゑ孝人と定むゆゑ
 孝人なる有男れゆゑ孝人そ有格これゆゑ
 孝人ありと云とそ廿能小定度二番れ修羅
 男強ふれん陰湯和合とそりあつせ三番小
 かつらつあり其上世おさほり泰平れ神代ハ
 八巻はそこりおめてゆゑ孝人つそりて孝人
 かれ道はあつゆゑありかつらつめハ世間乃有
 格とまおひみお物おれえ孝人がゆゑ孝人
 のつらつおとする形なり
 一回番小鬼強と定度是もお小おれえとそく
 只乃鬼強はあつすめいとれ鬼とりんとすそ
 子細ハ此おれ能ゆゑ孝人のかつらつ也とそ強
 よ神強とまおひ二番小あつはかつらつれ
 修羅かつらつのことく代と納と栄強つそりて

いへて我人のちりまんとたういへて佛法と強
小有せりやれをう集るも同前なりと云ふら
下誦と云ふまきと云ふと此義あり

一五番よまきりと定ま世間ハ仁義礼智信乃
又常とそむす一とまきりとわんとす孰
ま存まきりと右一番よ神能と定二番より
終焉と定三番よかつと定四番よ鬼と
定めいとれ有根をあつとすまきりとま
いと又常にならまきりある物をわくのまきり成

行との程りもまきりと思ひ人の為あり我小
うして五番よまきりと定

一六番よ後云と又すの定是ハ一序乃おさ
めありえ君をいし井牙をいし井取をいし井
苑ハ春よぬれをまきり立ゆる春よぬれを
まきりまきれまきりに苑候まきりあつとまきり
いしりまきりまきりぬる春よまきりあふとた
のまきりまきりまきりまきり納六番よりま
有つる後云とまきりまきり

右如姑二日此能子あると何し一る世間
 のよりさ海ととくくをあるし一五
 氏は是を思す能あるい何し一
 くら忍あ子こそものりやれ夏とさ
 や能能の糸、如姑た去是は初月
 乃能能あり二日あり一はまこ替
 くそそり一う寸かくうくあを
 入番教有一前日れ強子にあり
 能とせねとあり

一翁立れ糸は是よあり寸二八申樂乃た
 く秘の也秘密ととにきまありたる
 かの是はもきり一きまうそ七かり一神乃
 一よりある義ありは是とよりさす
 こころ七日れ去り人ありかり持せに
 かしやせさす志ろとあとおを不可傳へ
 一樂柏子の舞ハ繁那四羅王系許之調迦葉
 尊者之舞玉にせ佛ノ大樹繁那四羅ヲ説
 して之時ノ夏也大良舞ト云ナリ

一男舞ハ世親菩薩ノ造リ玉ル俱舎論ノ俱舎ノ舞ノテナリ

一醫方ハ上系ノ月宮月ノ宮人舞玉ルハ霞宮衣羽衣曲ナリ唐土ニテハ玄宗皇帝毎夜昇月宮習テ下テ楊貴妃ニシテ見玉ヒシテナリ

一鬼方ノ舞ハ流破住涂破大王ト泊大王舞ノテナリ

一神能ノ舞ハ天照太神ノ天ノ岩戸ノ内ニ於テ居玉ヒシニ引出之上為八百方諸神等舞

玉ヒシ曲舞ナリ催馬ヤ賀持ナシトナリ

一式三番ノ大吉又ヲ信ニ認給フ秘曲ナリ

一翁ノ大夫ハ天照太神宮ナリ

一子歳經ノ曆ハ春日大明神ナリ

一三番申稚久ハ住吉大明神ナリ

右式三番法花經ノ序分正宗分流

道分ノ三辰ナリ

一皮ノ〜〜〜曳囉哩々々々々囉

曳囉哩囉稚唎囉々々々々

一 唵 囉 耶 唵 囉 哩 唵 囉 哩 囉

唵 囉 哩 囉 維 哩 囉 人 哩 敷

處 子 代 遠 沛 産 我 亦 子 秋 候

露 鶴 卜 龜 卜 ノ 齡 ニ 幸 祐 意 ニ 任 タリ

ト ウ ク タ ラ リ ミ ミ ラ カ リ ラ リ トウ

チ リ ヤ タ ラ リ ミ ミ ラ リ ラ カ リ ラ リ トウ

結 有 耶 頌 々 耶 比 富 波 世 賀 喇 人 頌 々 耶

座 三 子 居 々 卜 參 蓮 花 利 耶 頌 々 耶 子 磐

破 神 ノ 度 佐 乃 久 シ カ レ トウ 祝 訖 焉 破 ス 理 智 耶 々

凡 諸 子 年 ノ 鵠 ハ 五 歲 樂 卜 謠 タリ 又 子 代 ノ

龜 ハ 申 三 玉 フ 倫 タリ

渚 ノ 波 汎 々 ト 菽 テ 朝 自 色 勝 々 々

瀧 ノ 水 冷 ミ ト 洛 夜 ノ 月 鮮 々 浮 タリ

天 下 養 平 國 土 安 穩 々 々 自 禱 祈 禱 々 々

ア リ ハ ラ ヤ 耶 何 亦 ノ 翁 ト モ

ア 六 何 亦 ノ 翁 ト モ ツ ヤ 何 ノ 翁 ト モ ツ ヨ ヤ

子 秋 万 歲 ノ 祝 ノ 兼 ナ シ ハ 一 舞 ニ ツ ウ 五 感 樂

々 々 禱 吹 耶

淨願何系小官者殿又迦斤尼佛亦友者
殿父ヲ淨飯大王曰母是麻耶姆人善學
長者ノ娘ナリ生羽ハ功利天一取ハ花園淨
座ま父ノ尉親子ト是ま淨祈壽申サニ又
モヤ来ラニ官者一天風テ収テ民五湖ノ象
涇玉躰恙不淨座シテ麟角各傾天地開
始開闢シテ三皇五帝ノ從首傳来ニ羽
ヤソヨヤ祝ス松ヲ八根ナカラ取何哩宇鼓
ニリ上ニ事ナキ大古又ナリ

一團常立尊小日枝榻ノ栖玉ハ初嘗波母
山小月尔松自在山嵐モ寒シ向人モナト添シ
御座セシニ天来下ニ雜々ノ能ヲ奉ニ尉是
ヲ曲ト云也此天人ノ蓋セル能ヲ深山ノ嶽見テ
是ヲ真似且之月台ニ座ノ申樂ナリ日吉共
云一座又炊宋曲一座又山階一座又三座也
一大和四座者申樂ト書タリ近江ナルカク
ヲ八猿ト云字ヲ書タリ日吉ノレシヤナル成
故ニ此ナライヲシラストナリ

大和申樂之次カシヤニ

一第ニ 天照太神 羽舞 太鼓殿

一第ニ 八幡大菩薩 子威 鈴大文殿

一第ニ 春日大明神 三番 神樂太鼓殿

さねえま云日殿小三子人此宮人乃社家乃

歌あり歌のうまに殿あり又神在地尺迦

如来あり春日殿七百三十九舞の歌た

是は日本国小舞をこく吹たり次

申樂之春日明神の清なるあり其時

清子れ舞たり三番目よ立給ふより

三番申樂と号神樂れ大將あり

其奉は勝安民乃代り申樂と云右

と書人カと四座と号春日れ四取明神小

一人宛乃清守あり一番大菩薩二番

天照太神三番春日大明神もこの宮殿

守久神乃清事にりち久神や三人を

父母乃清神ありありまを守り清神とい

是は天照太神宮八幡大菩薩春日大明

神乃杖う珍珍小父母の幸う三ま人の面とく
 小わく天長地久を祈禱たり式三番のい
 あもしく諱る有へささるあり杖ありふ思ひ
 是れをわつとかりむるけり扱ひさ能ハ春日の
 明神れ守守れるあり天竺ありてるこ
 とやちる是もその時の守久の神天照太
 神宮れ守守るたりたり是後日さ能の深
 ちうて是れありささるありとやめありト
 ゆへ小能と云あり

一さりれささるの小能なりつさ小なやぐサ
 此よりささる云つとささるありとあり
 一さかり松の小能れり大鳥井乃方より笛
 といひと吹奏是日吉と云字あり小能たつ
 とくや三度打るの九曜の星をひらりす
 玄小ありて大能なりぬりいひた小能ハい
 めとまらりぬるささるありと云はま子廻
 又中を扱とあるささるありと云はぬりたる
 何と云は此儀あり笛小日吉と喚やうて

卯と申す日むまゝいと書きて星とよめ
 皇天よりかれ松さかりたる時さうびこさう
 ひち二人下く今日日者と声と立くよめ
 こさうしゆへあり九川のほり下く松のえさ
 小さかりと松よ星下れ松たよりまれの松
 乃下あり打れさ鼓のより天長地久の松
 ほとかゝり小打口傳を笛をわくのよ
 の年ありと書く口傳有松系
 松年と定く流しありよ打笛を吹けり

十二月廿七日あり同廿八日小馬場殿と四座
 の立合有弓矢乃流あり觀せり
 船の立合ありこれと松よと松子れ位は
 二つ乃位をむひ小持は在習あり小鼓とひ
 小打りの此さかり松乃心とよめ小さねは皮
 松を天より天照太神宮を守の系をとつと
 つらふまゝありつらふ小笛小鼓天長とばは
 神の流名とことひり三山とよめ本と
 あゝ松山ある時わの松あめり長後神氏

淳亨二年二月六日小向内國ひらりあり
 春日大明神や三笠山之龍うらら給たまふ
 そらまゝをひく二月六日よりまを極一ハ
 此うほいふらうたさてれ法まらうを列
 二月六日小四座のよさこれ翁を結さこの茶
 あらつとち中ねりまはれ上あり同七日うら
 合有芝をぬこいと定能とすするらまら
 あり春日と六の石をねす一殿とや今うハ
 大神三子七百人の神歌あり是とす一殿と

いり右小書垂てらく是ハ春日大明神乃
 清きれ神あり今は是の人小法あり
 どのとあり同清守れ神守久神そ
 春日小法一ますありれ法おと二番り
 室こ殿法とつあり今小春日小有三十
 六人乃社家れか孫たり是ハ二月六日小春
 日乃清前子舞有六人つあり法ありかあ
 難きありひらりありひらり日也是をひくま
 つらまるとさむ又まらり一はとまらるをまら

うんととて三番さるるかゝる時刀卦はあゝ
 皮さるるさるれ池悉らうつと三度り一教りいを
 先三番小おと申樂とてまぬりの舞れ
 後小能有さん申樂とてさ方ハ申示是也
 ひよこれさるぬりかろととさ字をかゝる
 三人の兄弟れあうらうらう今小和國は
 おわくまゝ一舞さるるかゝとけり又をい申示
 とを積樂と此字を書きそ子細の日をれ忘
 一やたるふらうてひえれ山らうらうらう
 云字如れよ書らうらあめを積示は且書れ神
 るりとうとむるふらうらうのよとこれ後
 勢一と申樂とあゝんその此道といこ
 つふあせん書目の法とつをぬくか
 むるありめてをれちのめとねをい法を
 心つらるるたぬ振小せいと入いて春日乃
 津内波よ叶あり

一 式式三番座付之次第之度

才二

羽

才一

十歳

才三

三番

才四

笛

才五

小鼓

才六

大鼓

才七

太鼓

才八

註流

才九

拍云

一 才一とあるは子歳二回斗り出るときは
 一 其次は右に才九れとくゆをかへ一 羽
 羽は人さへも座付れたるてね乃きさうり
 一 さいよむとあるはひよも乃くゆくさうり
 子歳始たいのまん中へく面相と目八分
 一 さいへ持てのこまるは羽子歳の右れ
 一 さいへ礼をして座付は時油とあり
 一 さいへあそそのききつて子歳の面相と
 一 羽乃きへ持て行く羽の前は面相とあり

ひやとてさし羽乃面とせせー面箱のや
小ぬちま乃かへむさく垂るのまへ立
わかりしよされ瘡よあさるさくえさる
まへ柄乃まよのあさるま時いつまし瘡
よつさくまて柄のまよといく座付れ正
二孔有ぬお乃くこれ座付いてより
やうて瘡付と吹小つ三折敷桶の紐を
とまこさる物とせとれさくいさく
左乃さくさくさくさくさくさくさく

乃袖といつさくさくさくさくさく
さふのせふえのいさくさくさく
瘡とてさくさくさくさくさく
の筋小く筋といろさくさくさく
くこのさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく

一子歳乃舞あるは蹴乃水と謡方あり方右
 の清也とてうとて鼓打れ哉んふりぬたい
 の中へ出ぬもさうふつふつひよふだつと
 してさうろの柏子ありたつたのをとて扇
 二月と甘きやく小娘の舞あるとして上は
 六二のうたと鈴今九の天津し母の羽衣と
 こころまはしほせんとうううへんやすひ
 ありてふりていふくくくく云はは柏子と
 一ふりて舞出り業れうくに舞鼓打り

前よりく鼓打り方へむきて又左の扇とを
 舞ぬ是は柏子有ぬおれ舞よあまの
 一さんたゆり大鼓とこゆり一打か扇合ふと
 比ふさあかり橋かりににくさんたゆり
 たゆりやうて舞也さんんをうて舞とて
 子歳鈴をぶちりさんんたゆりたゆり
 五て鈴とほとさんん鈴とぶくやと乃
 中へ出さううて扇を鈴と上は是にえ
 又系柏子有ぬ常れまは舞大鼓の前

少くは笛子こまかふやと二度まゝのたひこ
にくをまつり子細有より之舞をて面
ぬさ吹くかくるへは教

「羽笛乃吹振乃り座付三つを初日のま二日
はあゝ三月のまきあふ目ひりきまをわりて他節
若くは初日のまにわら座付吹くひりき
き喜れゆくと吹たりくたつたゆに流出す
さゝと心小奴せたりまゝりくうちたの喜れ
ゆりあゝ此次乃舞れはまてさゝとらうこひ

のまひひりきをあふの流乃水と講く敬の
歌と清くききあふゆりうまは笛子蔵一廻
の心小奴むいそ乃子とせと流人喜又ハと流
せと心せや任せらうとまゝりくくも流く舞
又笛有是の前乃舞より難ひりく有舞
翁舞とて居たれとまひぬと講きあ
つ時笛乃習れ吹振有久しかきと我い
井そまゝやとうこはか又笛多今日れ流
きたりあゝ是よりそ吹振をわいつく

の前とて一謡一廻り此舞有宴にくと笛
 六下と吹そめよとて一舞を笛吹振あ
 びさく前舞るもとて一の笛ひーさく小鼓
 打也とて舞はなうとてあてひーさく
 そ有そとて一乃乃乃乃乃あてさんんあて
 のはく笛吹古小あて京かたりは子細あ
 つまむもて一まひあて
 一小鼓打也一のり地目らおひさく打也す
 一日さくもて一乃乃乃乃乃あて打也と

四月うたなりとて五すやうてあての流乃氷とて
 鼓の平一子歳の心せと前乃謡以時さく小打
 とて一地謡以時さかろくもとてつもの打
 一子歳あての流の氷乃時乃まにたると
 打とて云物とてさせなりとて二度也後乃
 だのあかふる舞の心せと後打と前小
 歌二つ宛打くあてあまもてせんとてか
 つくまむの座一ていたまことを舞ひの舞の
 時あてあひのよくと小鼓ちあてか打る

是祈禱乃心也今日乃淨祈禱乃時きまきこ
 か極るそよあの時禱あり二つ二つま勢合て
 歌とえ打袖をぬいでかいらとエとくまきこ
 むおとて乃時分小半れ打くかいらおをれ
 ろうこふだの二つやけあり禱あまふふまきせ
 翁乃あひいほまろくふ三とれ禱と心ゆへ
 あり越笛小鼓三とれ傳をへまき又座
 きあまぐ翁立あしん歌二つゆく出と果
 座あ能乃あひり又を声乃事打り

々々親やの小声とる又ちま謡と云出時
 きまきいりあまさん小口傳

一式三番乃打出同歡進乃打出れ教のる

初日ハとろ平 かが かが かが

二日ハ 子〇 かが

三日ハ かが

四日ハ たらと
色すやろそあつハ能乃水と云教
 り子ハまさんさいふまの心也

如此小打分教形りちま乃身くまをえ
 合はたらくハ翁乃禱とらつちまか

入の橋かきりおんをかり入の時鼓を奏し
 一 此後ちういから此時小鼓をうたふ
 一 大鼓打出し地うひから鼓打し
 此こと心掛打せをわたり

一章初く後たつとさうさうちうい鼓の前前
 まくや入りとおありさん大鼓より鼓
 ありお出し小鼓二つ頭有是子細有鈴の
 伝ふ目よりかきり一翁たら大鼓かこのこと
 一 さまや成るのみ小おもひかきり口傳

以上七ヶ條此巻よ書記も所れ多し
 一 能うの初れお翁立大鼓兼侍は通
 一 常立此處にや神道をまわらんと
 一 虫は精進あき時つあう一よそのり
 一 あつらふり有間あきなりあつらふ
 一 ねさすすいんあつらふとあつらふ
 一 翁乃地かけきあうたふ小むんとあつら
 一 他神たうとま一あつら

一 大鼓のこころあかむ一 花傳云

と名付る夏を可此世うひよ有とある
その中お花よまーなる面白く成との
いあー又うところ面白あそひ曲お能おこし
たる幸おあー能おを却ー習乃大夏を
傳り取を花を傳り取りて花傳書と
是をふあり終乃極意此傳書お終
吉ああーうくー秘書まーかりそあ
おまますいあーい後く成く花傳書
とくく小成いせいうあーく大夏あーて



家次子うう外人お足守る夏あうれ大る
秘書守るあをいく残れあり



廿四

55

秘傳

二十六終

